



群馬大学 情報学部 2025

—
来
た
れ
。

目次

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 1. 学部長からのご挨拶 | 5. 教員紹介 | 17. 留学と GFL |
| 2. 学部概要 | 9. プログラム紹介 | 20. 進路情報 |
| 3. カリキュラムツリー | 13. PBL | 22. 施設紹介 |

学部長からのご挨拶



高山 利弘 Takayama Toshihiro

群馬県生まれ。1986 年本学教養部に赴任。1993 年社会情報学部。2021 年 4 月情報学部。専門は日本文学、言語文化。歴史文学や軍記文学をめぐるテキストの解説、説話伝承や日記・記録等をめぐる言語情報の諸問題を研究している。主な著書・論文に『訓読 四部合戦状本平家物語』（単著）、『校訂延慶本平家物語 巻二』（単著）、『同 巻七』（単著）、『軍記物語研究叢書 2 軍記文学の始発—初期軍記』（分担執筆）などがある。

群馬大学情報学部は、社会情報学部と理工学部電子情報理工学科情報科学コースを母体として 2021 年に設立された学部です。「人文情報」「社会共創」「データサイエンス」「計算機科学」の 4 つの教育プログラムを擁しています。

群馬大学「情報学部」が他大学の情報系学部と異なるのは、社会情報学部の教育プログラムを継承する人文科学分野と社会科学分野を厚くしている点です。かつての「情報化社会」は「情報社会」へ、そして「高度情報社会」というように、すさまじい速度で進展しました。言語表現としてはわずかな文字数の違いに過ぎませんが、情報をめぐる新たな変化のきざしは、たちまちのうちに社会を席卷し、実体を伴った世界を形づくっていきました。それとともに、我々の日常生活もまた大きな変化を遂げていったといえるでしょう。とはいえ、物心がついたときから情報機器に囲まれた環境にあり、スマホやネットなどを自由に使いこなす若いみなさんにとっては、高度情報社会とは自明の世界であり、このような物言いは、これらを経験した古い世代の人間のとらえ方に映るでしょう。しかし、未来を見据える上で、ここで少し立ち止まって、高度情報社会はどのようにもたらされたのか、そしてそれは何によって支えられているのかなどについて考えてほしいのです。「情報」という言葉の背後には、文字としては見えないさまざまな事象が存在しています。

高度情報化社会においては新たな課題が次々と押し寄せています。たとえば、日常生活に関わるさまざまな業種において、日々生成、蓄積される「ビッグデータ」の存在はご存知と思います。それらをどう活用するかという問題、その一方で、個人情報や権利などに関わるデリケートな問題も存在します。さまざまな課題をかかえつつ、高度情報社会は次のステージへと展開していくことでしょう。その際、情報やデータの精緻な分析が必要なのはいうまでもありませんが、それとともに、人間及び社会にとって、それらの分析結果がどのような意義を持つのかを見定める視点も重要です。

本学部の入試は文系・理系を問わず、受験科目を選択することが可能です。それは本学部での〈学び〉が文系・理系にとらわれないことも意味しています。高校生のみなさんは文系・理系のクラスに分かれて勉学に取り組んでいると思いますが、それは受験のための便宜的な区分にすぎません。

情報学部での〈学び〉によって文系・理系の殻を破り、新たな価値観と可能性を見出してください。

学部概要

情報を基軸とした文理横断の教育

きっとやりたいことが見つかる

第2の文理選択

多くの生徒が高校で行う文理選択。ですが、本学部では、2年次のプログラム選択で、高校での文理選択に関わらず自分が希望するプログラムに進むことが可能です。さらに、自分が所属していないプログラムの授業も履修することができます。

文系プログラム

理系プログラム

人文情報プログラム

養成する人材像

人文科学的知見を活用して高度情報化社会における課題を探索する能力を修得し、課題解決のための実践的理念を提供する能力を修得します。

将来のキャリアビジョン

マスコミ・メディア産業／情報通信関連企業／広報部署／企画・調査部署／公務員／社会起業家 など

社会共創プログラム

養成する人材像

高度情報化によるシステム(制度)の変化について、社会科学的知見を活用して課題を発見し、社会的課題の解決および社会目標の達成のためのシステム(制度)の構築や方策を提案できる能力を養成します。

将来のキャリアビジョン

公務員／金融機関／情報通信関連企業／企画・営業部門／ファイナンシャルプランナー／証券アナリスト／アクチュアリー／経営コンサルタント など

データサイエンスプログラム

養成する人材像

社会全体から集められるビッグデータを、情報システムを利用して収集する方法を設計し、集まったデータから、目的とする価値に適合した解決策を導く能力を養成します。

将来のキャリアビジョン

データサイエンティスト／システムエンジニア／情報サービス業・金融業・製造業等のIT関連研究開発者／公務員／アクチュアリー／経営コンサルタント／医療情報技術者 など

計算機科学プログラム

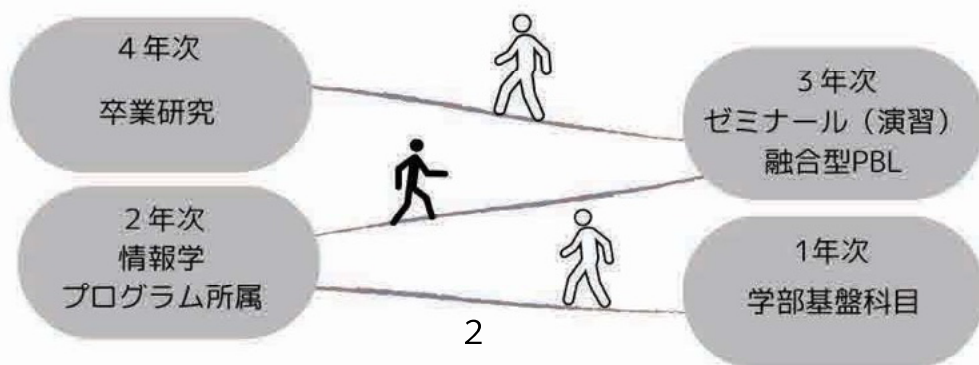
養成する人材像

計算機や情報ネットワークをその数理的原理から理解することで、進歩の速い情報技術をフォローアップできる能力をもち、人工知能や各種情報システムを研究開発できる能力を養成します。

将来のキャリアビジョン

ITエンジニア／情報通信機器開発者／組み込みシステム設計開発者／システムエンジニア／企業等のIT関連研究者 など

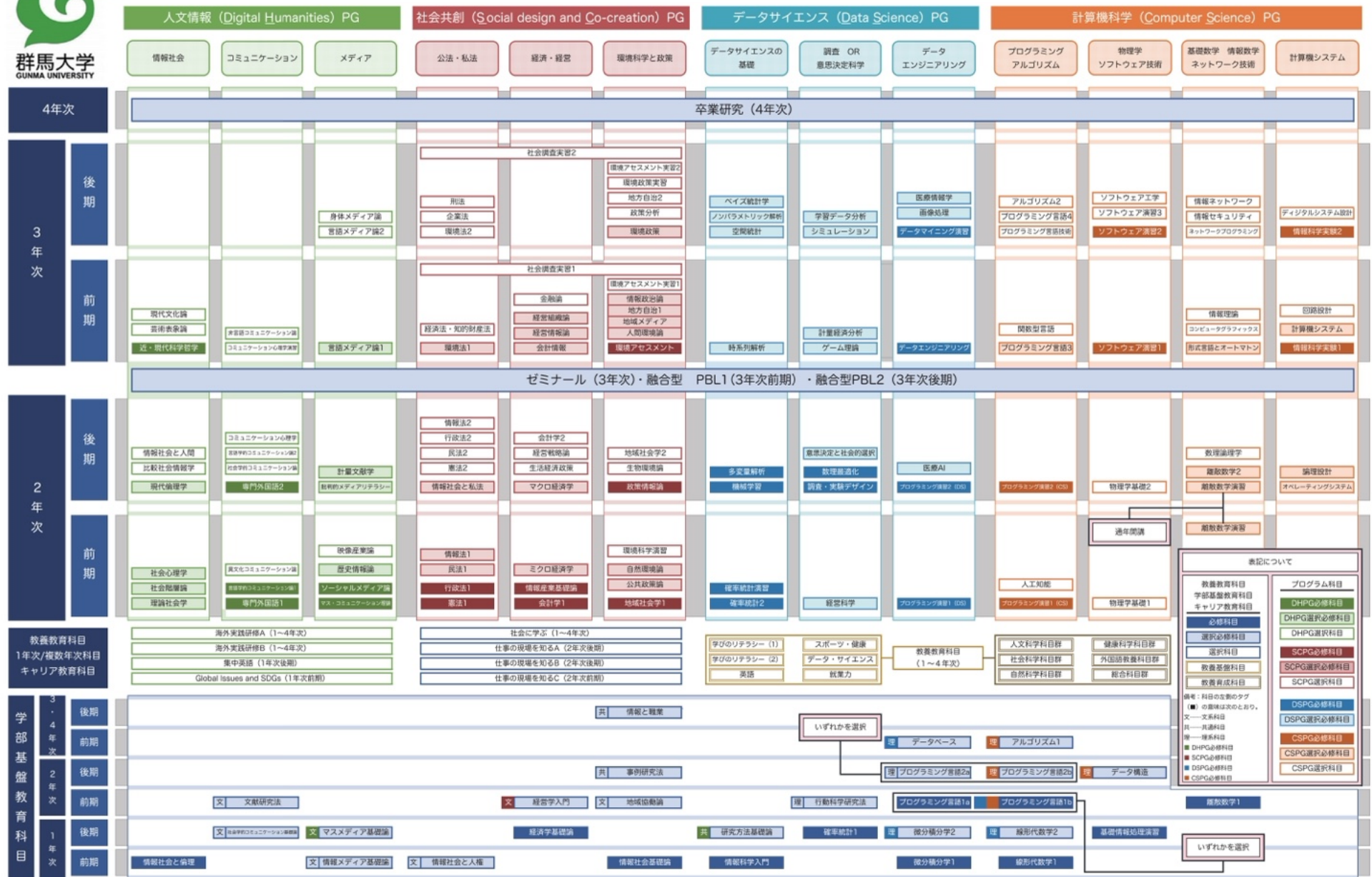
各学年の主な授業内容



カリキュラムツリー



情報学部 カリキュラムツリー



教員紹介



青山 一真

- ・バーチャルリアリティ
- ・ヒューマン・コンピュータ
- ・インタラクション
- ・神経工学

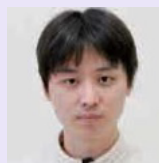
バーチャルリアリティ(VR)は、体験を創出したり、変容させる技術です。人に備わる感覚器や効果器の働きを理解して、その特性を活用したインターフェースを作ることで、様々な体験を作り出すVRシステムの構築を目指す研究をしています。



天野 一幸

- ・計算量理論
- ・アルゴリズム論
- ・機械学習

コンピュータを効率良く使用する方法や、その限界を数学的に解明する、理論計算機科学と呼ばれる分野の研究をしています。



荒木 徹也

- ・グラフアルゴリズム
- ・ソーシャルビッグデータ

SNS由来のソーシャルデータに対して、機械学習・データマイニングをツールとして用いて現実社会に有用な知見を得る研究や、データ可視化・施設配置問題などの研究に取り組んでいます。



柿本 敏克

- ・社会心理学
- ・グループ・ダイナミックス

人の社会性の諸相の探求。特に、環境問題や集団間関係をシミュレートする「仮想世界ゲーム」を使い、集団内・集団間のダイナミックスを探っています。持続可能な社会の構築に向けた学術的貢献を模索しています。



片山 佳代子

- ・疫学
- ・臨床統計学

がんの予防研究や疫学研究を中心に医療ビッグデータを使った研究に従事しています。また解析結果をいかにわかりやすく国民に還元するか、情報発信の在り方や可視化に関する研究を行っています。



加藤 毅

- ・AI
- ・機械学習

AIは、昨今、急速に発展し、人間社会に深く浸透してきました。私は、AIに関する汎用的な技術の開発に加えて、環境工学や生物学など異分野におけるAIの応用の模索を行っています。



荒木 徹

- ・グラフ理論
- ・組合せ最適化
- ・離散数学

ネットワークの構造を数学的に考える分野がグラフ理論です。グラフ理論における最適化は単純ですが難しい問題がたくさんあります。それらを効率よく解く方法を研究しています。



安藤 崇央

- ・ソフトウェア工学
- ・形式手法

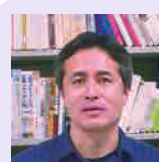
ソフトウェア工学、特にソフトウェアライフサイクルの各段階に形式手法を適用する手法やツールについて研究・開発を行っています。また、近年ではスマートモビリティに関する研究にも携わっています。



石川 真一

- ・植物環境生理学
- ・植物生理生態学

温暖化や地域開発で生じた環境問題解決のための、生物多様性の保全・外来生物の抑制、地域生態系再生、ビオトープの育成管理方法の研究をしています。



河島 基弘

- ・社会学
- ・メディア論
- ・倫理思想

メディアによる他文化表象の問題、人間と動物の関係がテーマです。最近では特に、食文化・道徳哲学、進化心理学などに興味を持っています。



河西 憲一

- ・待ち行列理論
- ・確率モデル
- ・情報通信ネットワーク

待ち行列理論や通信トラヒック理論と呼ばれる確率論を応用した数理工学的手法により、インターネットや携帯電話網等の情報通信技術の基盤となる情報ネットワークを研究をしています。



金 幸弘

- ・会計学
- ・環境管理会計
- ・CSRマネジメント

企業が環境問題や社会問題にどのように取り組んでいるのかを、「マテリアルフローコスト会計(MFCA)」、「マネジメント・コントロール・システム(MCS)」といった会計手法や会計理論を用いて研究を行っています。



井門 亮

- ・言語学
- ・語用論

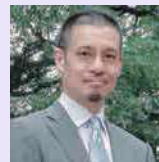
話し手が発したことばを聞き手はどのように解釈しているのだろうかという疑問をもとに、ことばの意味やコミュニケーションの仕組みについて、言語学的観点から研究しています。



伊藤 賢一

- ・理論社会学
- ・情報社会学

(高度)情報社会とは何なのか、よりよい情報社会をつくるにはどうしたらよいのか、そもそもよりよい社会とは何なのか、といったことについて社会学や社会情報学の道具を使って探求しています。



岩井 淳

- ・社会情報システム学
- ・意思決定支援論

「社会の幸せに結びつく情報化」が目標、インターネット上の匿名性やストレスの問題を考えつつ、社会的な意思決定の支援方法を研究しています。



草野 邦明

- ・地理情報科学
- ・人文地理学
- ・地域人口学

地理情報システム(GIS)と小地域統計・地理空間データを用いて、地理学および人口学の視点から社会・経済的事象を明らかにする研究を行っています。



小竹 裕人

- ・公共政策論
- ・低速度交通

特定の人や場所に公共サービスを提供するのは公平性に問題があるとされています。地域では買い物弱者問題などの特定の場所に社会的課題が生じていて、それらを公共的に解決するための研究を行っています。



齋藤 翔太

- ・情報理論
- ・機械学習
- ・情報理論的セキュリティ

デジタルデータの圧縮や通信に関する数学理論である情報理論を研究しています。また、情報理論を機械学習や情報理論的セキュリティの分野へ応用する研究も行っています。



江良 亮

- ・開発経済学
- ・実証経済分析

経済学を用いた実証分析を専門としています。現在関心を持っている対象は、地方の食品産業の生産性分析、限界集落の持続可能性、そして放送メディアの今後になります。



大澤 新吾

- ・ネットワークの構成
- ・分散アルゴリズム

コンピュータ・ネットワークをグラフでモデル化し、それらの構成方法や構造を研究しています。また、分散アルゴリズムの研究を行っています。



大塚 岳

- ・非線形解析学
- ・応用数学

結晶で見られるような多面体構造や、界面が成長することで生じる界面の衝突・融合・生成・消滅などを含めて、モノの形を変化する様子を未知関数の方程式として数学的に捉え解析する研究と、その応用を行っています。



坂田 勝彦

- ・社会学
- ・生活史
- ・地域社会論

私たちが日々の暮らしを営む地域社会にはそれぞれに固有の成り立ちと課題があります。そうした地域社会の過去と現在の関係について研究しています。



坂本 和靖

- ・計量経済学
- ・労働経済学

数量データを用いて、社会保障制度が人々の行動・満足度に与える影響を検証し、望ましい働き方・家庭生活のあり方について研究しています。



柴田 博仁

- ・ユーザインタフェースデザイン
- ・認知科学

道具次第で人は賢くもなり、愚かにもなります。人を賢くする道具を作りたい。特に興味があるのは読み書き、ICTを用いた読み書きのための新たな環境構築を目指します。



大野 富彦

- ・経営学
- ・サービス・マネジメント
- ・経営組織論

観光地・温泉地の価値共創プロセスとそのマネジメントのあり方について、個別企業(旅館等の宿泊業が中心)と地域の両面から研究しています。



奥 寛雅

- ・ダイナミックイメージコントロール
- ・高速画像処理
- ・高速光学デバイス

我々の周囲は人や車などが行き交う動的な環境となっており、このような環境に対応して高速かつ適応的に映像の計測や投影を行う技術の研究・開発して、次世代のメディアテクノロジーを創出することを目指しています。



奥貫 圭一

- ・地理情報科学
- ・都市工学

都市や地域のさまざまな問題に対して、データ解析の技法をとりいれながら、地理情報システム(GIS)をどのように活用していけば私たちの日常生活に役立てられるか研究しています。



嶋田 香

- ・データ科学
- ・知能情報学

進化、免疫、群知能といった生物界にみられる種々のメカニズムを参考にし新しい情報処理技術に関心を持っており、大規模化・複雑化するデータの分析に役立つアルゴリズムやその応用法を研究しています。



杉山 学

- ・オペレーションズ・リサーチ
- ・経営科学

オペレーションズ・リサーチや経営科学と呼ばれる学問分野(OR/MS)が私の主な専門です。特に総合評価を行うための数理的意思決定支援手法の開発や実証分析を中心に研究しています。



関 庸一

- ・データマイニング
- ・統計的学習理論
- ・応用データ解析

デジタル化され大量に収集/蓄積されたデータを扱う方法として、データマイニングなどのデータ解析の技法とその応用の方法を研究し、「データで物を言う」(意思決定する)方法を考えたい。



高井 ゆと里

- ・哲学
- ・倫理学

西洋哲学と生命倫理学を研究しています。世界はどのように成り立っているか。人間とはどのような存在か。命の価値に違いをつける発想はなぜ生まれたのか。そうした問いを探究しています。



高木 理

- ・医療情報学
- ・データセキュリティ

病院情報システムや学習管理システム上に蓄積される秘匿性の高いデータを、如何にして、プライバシーを保護しつつ、有効に活用していくのかを研究しています。



高山 利弘

- ・説話伝承をめぐる日本文化研究
- ・中世軍記物語研究

軍記文学作品や古記録・貴族日記等の文献の解読と説話伝承をめぐる言語情報の分析を通して、日本の古代社会における情報のあり方と文化を研究しています。



松宮 広和

- ・経済法
- ・知的財産権 他

経済法、知的財産権法および情報法の観点から、科学技術の発展が既存の法制度に与える影響を情報通信の領域を中心に研究している。



宮田 洋行

- ・組合せ論
- ・アルゴリズム理論

アルゴリズムの理解を深める数学、また数学を理解するのを助けるアルゴリズムを研究しています。



安川 美智子

- ・社会情報学
- ・図書館情報学

情報検索システムの検索有効性を向上することを目的として、検索関連語を用いた分類型検索の応用的研究という観点から、多言語対応の分類型検索システムの開発に取り組んでいます。



千田 浩司

- ・情報セキュリティ
- ・データプライバシー
- ・暗号技術

個人情報を含む様々なデータを安全に利活用できるようにする技術や仕組みの研究をしています。



地村 弘二

- ・認知神経科学
- ・神経情報学

ヒトの脳と心の間を、現代科学の方法で理解することを目指しています。とりわけ、ヒトを特徴づけるような心の機能が、脳にどのように実装されているかを、情報学的・生理学的・心理学的に知りたいと思っています。



鷺島 修治

- ・計量社会学
- ・社会階層論

学力調査や社会調査のデータを用いた計量分析を通して、家庭背景による教育機会の格差・不平等が生み出されるメカニズムについて研究を行っています。



山本 真祐子

- ・知的財産法

知的財産法について、デザインやブランドの保護を中心に、特にファッションデザインの保護の在り方について研究しています。



結城 恵

- ・教育社会学
- ・多文化共生
- ・キャリア教育
- ・異文化コミュニケーション

人的多様性(ダイバーシティ)を活かす多文化協働の仕組みづくりと人財養成のあり方を探るため、外国人留学生や定住外国人に焦点を当ててアクションリサーチを展開しています。



吉川 正人

- ・理論言語学
- ・コーパス言語学

日ごろ当たり前のように使っている「ことば」について、その「本質」を解き明かすべく、記憶や意識、社会規範など様々な観点から理論的な研究を行っています。



長井 歩

- ・人工知能
- ・機械学習
- ・探索

古文書のくずし字を深層学習で認識する研究を行っています。今後は自然言語の情報を上手に反映させる方針です。最近将棋の研究にも時間を割くようにしています。



永野 清仁

- ・最適化理論
- ・機械学習
- ・ネットワーク最適化

人間関係や道路網など、多くの現象はネットワークとして扱えます。ネットワーク等を題材に、数学的手法を世の中の役に立てるための研究をしています。



中野 真一

- ・アルゴリズム
- ・最適化

様々な問題を、少しだけのメモリを使って、高速に、簡単に解く、アルゴリズムの設計技術を開発しています。この技術を使って、世界最速のアルゴリズムを多数開発しています。



西村 尚之

- ・森林生態学

森林の成り立ちや移り変わりのメカニズムに関する研究や、長期的な観測によって森林に及ぼす人間や自然攪乱の影響に関する研究を行っています。



西村 淑子

- ・行政法
- ・環境法

ハンセン病政策、旧優生保護法の下で行われた不妊手術等による被害とその救済について研究しています。



平田 知久

- ・近・現代思想史
- ・比較社会学
- ・社会史

東(東南)アジアの情報メディア技術の普及と伝播を、各国比較と歴史の変遷から描写し、未来の情報社会の姿を、メディアと技術に関する思想的な知見を考慮に入れて提示することに研究の主眼があります。



藤井 正希

- ・憲法学

第1のテーマはマスメディアの活動を適正化するための憲法論の研究。また、憲法9条の永久平和主義を実現・発展させるために生存権を積極的活用する研究にも興味があります。



藤田 憲悦

- ・計算理論
- ・数理論理学
- ・プログラム検証

計算理論、計算モデルと数理論理学の観点から情報の基礎理論を究めて、プログラム検証に応用します。



細野 文雄

- ・並列／分散処理
- ・Webマイニング

現在は対面型シミュレーションゲーム「仮想世界ゲーム」の電子化に関する研究をしています。

情報学部**の強みを活かそう！**

情報学部には、様々な専門分野の教員がそろっています。「本当にやりたいことがわからない」、「情報の観点から多くの分野を学びたい」という学生にとって、文理横断型教育の本学部は最適な環境だと思います。文理にとらわれず課題にアプローチできるという情報学部ならではの強みを活かし、自身の夢を追いかけてみませんか？

プログラム紹介

人文情報プログラム



鳶島 修治 先生

専門分野：計量社会学, 社会階層論

【研究方法基礎論】

社会学などの人文社会科学の分野において、量的／質的なデータにもとづく実証研究は重要な役割を担っています。そして、データから価値のある情報を引き出すためには、適切な方法でデータの収集や分析を行うことが必要です。人文情報プログラムの必修科目であるこの授業では、調査票の作り方や調査対象の選び方、基礎的なデータ分析の方法などを学び、社会調査を自ら企画・実施するために必要な知識を身につけることを目指します。

【鳶島ゼミ】

社会学分野のゼミです。研究対象やテーマは自由で、実際にゼミ生は各々の関心にもとづいてさまざまなテーマで研究に取り組んでいます。社会学の入門書や研究書、研究論文を読んだり、実際の社会調査のデータを用いて分析の演習を行ったりしながら、社会学の考え方や研究方法を中心に学び、学生各自が関心をもっている社会現象や社会問題について、調査やデータにもとづいて実証的に探求する能力の獲得を目指します。



社会共創プログラム



坂本 和靖 先生

専門分野：計量経済学, 労働経済学

【生活経済政策】

貧困・格差問題を主題とし、①現在運用されている社会保障制度のPros & Consの整理、②所得分配の不平等度の計測方法の学習、③情報技術・人工知能の活用による自動化が招く不平等格差問題について紹介します。その上で、社会政策の設計において、特に人々を救済するために何が重要なのかについて学習します。座学だけでなく、履修者同士でグループを作って発表会も実施します。

【坂本ゼミ】

ゼミナールでは、「計量経済分析」(3年前期)の学習内容を踏まえ、分析スキル及びプレゼンスキルを磨きます。具体的には、毎年1月に開催される他大学と共同開催する研究会に向けて、ゼミ生各自が興味のある研究課題を探し、課題を検証するため、必要なデータの探索、適切な分析手法の学習を行います。ここ数年は、「奨学金が有効活用されているか?」「コロナ禍で教育格差が広がったか?」「男女賃金格差の要因分析」など様々な社会的課題を実証研究しております。



プログラム紹介

データサイエンスプログラム



嶋田 香 先生

専門分野： データ科学, 知能情報学

【多変量解析】

データサイエンスの基礎として、多変量データの基本的な取り扱い方と、探索型と検索型の主なデータ分析手法についての基礎的な考え方を理解しながら、多変量解析について概観していきます。講義が中心ですが、R言語などを用いた演習を行うことで理解を深めるとともに分析スキルを身に付けられるようにする授業です。理論面では、統計学で多用される行列演習や線形空間の概念についての理解を深めていくことを目指します。

【嶋田ゼミ】

データマイニングと知識発見「方法をつくる」ことを研究テーマの中心にしています。新しい方法や拡張するための方法を研究していくことになりますが、その基礎として人工知能の一分野である進化計算という技術にも注目しています。機械学習を含めた最新の方法の強み・弱みを知り、多様なデータと向きあっていくために基礎となる文献や最新の論文に基づいて議論し、プログラミングやシミュレーションに取り組んでいます。



計算機科学プログラム



河西 憲一 先生

専門分野： 情報通信ネットワーク
待ち行列理論
確率モデル

【情報ネットワーク】

現代社会においては SNS をはじめ、動画共有サイト、EC サイトなど、情報通信技術を活用した様々なサービスが私たちの日常生活の中に浸透しています。本授業では、このような情報通信サービスそのものの基盤となる情報ネットワーク技術を学びます。人と人とのコミュニケーションのために、スマートフォンやコンピュータ同士がどのようにして通信してつながるのか、その仕組みを理解することで情報ネットワークのリテラシー向上を目指しています。

【河西ゼミ】

オンラインストレージサービスなど、今日ではネットワークを通じて様々なサービスが展開されています。ネットワークを通じたサービスの実現のためには、情報通信技術に関する知識はもとより、Linux等によるサーバー構築のスキルなど、コンピュータに関する非常に多岐にわたった技術を身につける必要があります。その中でも本ゼミでは現代のコンピュータネットワーク技術の中核をなすTCP/IPと呼ばれる通信プロトコルを基礎から学びます。



PBL 紹介

PBLとは

「Project Based Learning」の略称で、「課題解決型学習」や「問題解決型学習プロジェクト型学習」などと訳されています。

情報学部では3年次に融合型PBLの授業を履修します。学生が自ら課題を解決する能力を養うための授業です。従来のように、教員が講義をして一方的に知識を教え、生徒がそれをノートに書いて覚える、といった受動的な学習方法とは異なるところがポイントです。

PBLの目的

目的は、人文・社会と自然科学の諸学を通じて全体を統括できるような視点を養うとともに、実社会の課題に対してデータサイエンスの知識を用いて解決策を提案する能力を養うためです。

特に、本学部では文理融合の学問を応用することを前提としたテーマを設定して、地球環境問題、生命操作の問題、AIなどで生まれる新たな倫理的問題に対して、高度な価値判断に基づいた意思決定の過程に参画することに重点を置きます。PBLの実施では文理融合の観点を取り入れ、人文情報プログラム又は社会共創プログラムの学生とデータサイエンスプログラム又は計算機科学プログラムの学生がグループを作って課題解決に取り組んでいきます。

今まで開講された授業

- ・PR映像制作とその評価手法の構築
- ・不特定多数の視聴者の耳に本学情報学部の魅力をどうPRするか
- ・群馬の大学生のモビリティ意識分析
- ・広告メディア営業を通じて学ぶ課題解決
- ・実務経験のある教員によるマーケティング理論と企業を題材にした事例研究と企画提案
- ・派遣事業企業における手作業の管理運営業務に関する運用設計
- ・個人情報を活用したヘルスケア新事業の企画提案
- ・新聞誌面を構成する「記事以外の要素」のデータベース制作
- ・ICTを用いた教育機関の支援
- ・「若者のニュース離れ」について、政治（選挙）を軸に調査、分析し、改善策を考える
- ・損害保険の新たな商品提案
- ・群馬県農産品のブランド化、プレミアム価値
- ・道の駅まえばし赤城とつながる・道の駅まえばし赤城でつながるために必要なことは何か

PBL【群馬県農産物のブランド化、プレミアム価値】



江良 亮 教授

専門分野
開発経済学・実証経済分析

まずは群馬県の農業全体について学び、そしてその中から、もっと全国的に知名度があっても良いのではないかとような農産物を学生自らが選び、そのプロモーションの方法を考え、県産品と県外品を比べた場合に県産品にどれだけのプレミアム価値があるかを検討することを目的としています。スーパーや直売所についてインタビュー調査を行い、群馬県産品のニーズ動向やPR方法について定性的・定量的に検討していきます。



PBL【道の駅まえばし赤城とつながる・道の駅まえばし赤城でつながるために必要なことは何か】



大野 富彦 教授

専門分野
経営学・サービスマネジメント
経営組織論

本授業は、「道の駅まえばし赤城」を対象としたプロジェクトを実施します。本道の駅は「前橋の新たな玄関口」をコンセプトに、モノ×コト×ヒトの交流拠点として期待されています。そこで、道の駅をプラットフォームとして捉え、そこでつながり(モノ×コト×ヒト)が生まれるためにはどのような課題があるかを、ゲスト講師による講義やフィールドワーク等を基にして明らかにします。そして、解決策をまとめ、発表してもらいます。

在学生インタビュー

【群馬県農産品のブランド化、プレミアム価値】

私たちのPBLでは、グループに分かれてそれぞれ活動を行いました。実際に道の駅まえばし赤城に赴き、そこで赤城や前橋の魅力をどう発信していくかを考えました。私は、このPBLを通じて初めて道の駅の存在を知り、そしてその場所や地元の魅力を知りました。実際に道の駅に足を運ぶと、そこにはまだ広く知られていない赤城の名物や観光名所などが多くありました。実際にまだその魅力を知らない人々にどのように伝えていくかを考え、様々な案を考えることはとても楽しかったです。

また、情報学部は2年になるとコースが分かれ、専門的な分野に入るため文系と理系が分けられるのですが、PBLの下では文系の人でも理系の人と同じテーマ、同じグループで活動を行うため、今まで関わりのなかった人との出会いがあり、そういった人たちと仲良くなって話し合いの場が生まれたことがとても面白いと感じました。普段一緒にならない文系と理系の人々が融合することによって新たな発想が生まれ、多角的な視点から議論を行えることはPBLならではの魅力なのではないかと考えています。

今回のこのPBLでは、最終的にプレゼンテーションを行ってグループで考えた案を発表する形になりました。他のPBLでは実際に現地で活動を行ったり作品を作ったりなど、実践的な活動を行っているPBLもあるので、自分が興味を持ったPBLを探してみるととても面白いと思います！



社会共創 PG 4年

いまい

今井 ゆい



人文情報 PG 4年

くりやま るな

栗原 瑠奈

私たちのグループでは、道の駅をプラットフォームとして、訪れた人が周辺観光地に足を運んでくれるようにするにはどうすればよいかを論点にしました。具体的に道の駅が今どのような状況なのかを知るため、実際に道の駅への現地調査を行い、またゲスト講師として道の駅内のレストランのオーナー様を招いて講演をしてもらうなどの活動を行いました。活動を進めていく中で見つけた道の駅の課題をどう解決するか、その点を考案することが難しい点の一つだったと感じています。

しかし、そうした経験を経て、実現可能性に囚われない自由な発想を持つことの重要性を実感しました。一つの案に対して、本当にそれは現実的な案なのか？と考えてしまいがちですが、現実的な点を深く考えすぎずにアイデアを創出することが豊かな発想に繋がるのだと学びました。

私たちは最終的に、道の駅の導線改善や名産品のピックアップなどの案を出しました。PBLはただ生徒が集まって活動を行うというだけでなく、プロジェクトマネジメントを学ぶ機会であったり、他プログラムとの関わりを深める希少な機会であったり、また今回のように実践的なスキルを身に着けるという意味でも大いに役立つ授業です。貴重な経験をたくさん得られる授業なので、ぜひ楽しみにしてください！

在学生インタビュー

【道の駅まえばし赤城とつながる・道の駅まえばし赤城でつながるために必要なことは何か】

私は融合型PBLの講義として『群馬県農産品のブランド化、プレミアム価値』を受講しました。この講義では群馬県の農業の特徴について学び、JAの仕組みや事業の成り立ちを学びました。

群馬県は特産に弱く、印象の残りづらさから消費者にブランド意識が根付いていないというのが課題としてあります。そのため、道の駅やスーパーにフィールドワークを行い、それぞれの強みを分析し比較しました。その中で、SNSの活用や商品名を印象的なものにするなど、様々な工夫を発見することができました。また、農産物の販売や情報発信のやり方、これからの農業の担い手など、解決すべき問題があることを実感しました。

講義を行っていく中で、課題を見つけることや解決していくことへの力がついていくのを感じました。また、主体的・自主的に行動すること、コミュニケーションを取ることで、ターゲットを設定して行動に移すなど、これからの社会で必要になる能力を身に着けることができたと思います。

印象に残っていることとして、この講義ではJAの職員の方からお話を直接聞くことができたことがあります。普段ではなかなかできない、貴重な体験でした。



社会共創 PG 4年

いしかわ ももか

石川 百々果



社会共創 PG 4年

おぐら みか

小椋 美佳

私たちはフィールドワークとして産直ゆうあい館へ行き、視察やインタビューを行いました。お話を伺っていく中で、市外の人々が農産物を商品として販売できなかったり、情報発信が上手くできなかったりするなど、様々な問題を発見することができました。その解決策として、特産品としての知名度や認知度を上げていくことが重要であると考えました。群馬県と言えば！といったものがないので、今までにやったことがないことにチャレンジしていくことも必要だとも思っています。私自身、群馬県の「新しい物語」を国内だけでなく、世界に発信したいと考えています！

PBLは文理融合型の授業ということで、文系である私は理系の人とも一緒に活動しました。理系の人には理系特有の分析をするなど、私にはない発想を見ることができ、文理融合の面白さを感じました。

PBL自体、私たちが一期生ということもあり、今後の学生さんたちのPBLがより充実したものになるようにと思い、自分なりに動いていったつもりです。色々なPBLがありますが、PBLを通して、発想力や想像力などの、可能性を広げていって欲しいなと思います！

群大で留学しませんか？

交換留学

協定校との間に長期（1 年、あるいは半年）や短期（2 週間程度）の留学プログラムがあります。短期留学は、長期休みなどを利用していくことができます。また、審査で認定されれば、自身の単位に含むことも可能です。自身の可能性を広げるために、ぜひ検討してみてください。

ヨーロッパ

- リュブリュナ大学（スロベニア）
- ヤギェウォ大学（ポーランド）
- カーロリ・ガジュパール大学（ハンガリー）
- フィレンツェ大学（イタリア）
- ザグレブ大学（クロアチア）

アジア、オセアニア

- ウーロンゴン大学（オーストラリア）
- 南洋理工大學（シンガポール）
- 建国大学、嶺南大学（韓国）
- 東海大学、世新大学、台北教育大学（台湾）

本学部の協定校一覧↓



北アメリカ

- サンディエゴ州立大学

留学体験記



群大生と留学生の架け橋になりたい。

私は、「英語を日常的に話される場に行き英語力を高め、交流している留学生との橋渡しができるようになりたい」と考え、オーストラリアのディーキン大学への留学をしました。そして、様々な経験と多くの驚きを得て、今までよりも広い視野でものを見られるようになりました。

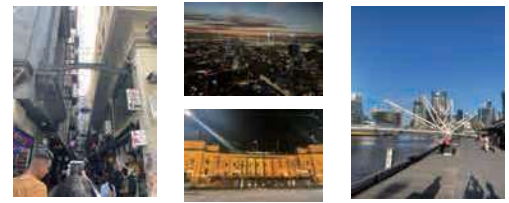
留学へ行きますが驚いたのは、自分が想像していた海外と、実際にいった海外では大きな違いがあったということです。オーストラリアに行く前は、「治安が悪くバックを背負ってはいけなく」とか、「英語がうまくないと全然話にならないかもしれない」などと考えていました。しかし、実際にしてみると治安はさほど悪くなく、夜に現地の子供が町中を一人で出歩けるほどでした。また、多民族国家であるため、英語が下手な人や、そもそもしゃべれないという人もいました。たとえ下手でも、身振りや表情などの伝えようとする努力が大切なのだと改めて実感しました。

鈴木颯一郎
2023 年度 GFL 生
オーストラリア
ディーキン大学留学
(2024 年 2 月～3 月)



またディーキン大学では、英語による交流や、メルボルン市内での課外活動を行いました。留学生でのクラスであったためか、クラスのほぼ全員が日本人で、日本人が顔を突き合わせて英語で会話するという奇妙な光景が広がっていました(笑)。そこで出会った友人とは今でも連絡を取っており、同じ向上心のある人とのつながりができました。

留学を考えている方には、まず行ってみたいですね。いろいろな場所で言われてきたことだとは思いますが、行ってみないことには始まりません。留学で得られる体験や知見に思いを馳せ、ぜひ群馬大学で留学しましょう！



グローバルフロンティアリーダー（GFL）とは

群馬大学では、本学の学生が「自国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」となるよう、グローバル人材の育成に力を入れています。その一環として、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを設置しています。情報学部では、世界と地域をつなぐグローバルな視点を持ち、情報分野における研究・開発・課題解決の場面で積極的に活躍するフロンティアリーダーとなる人材の養成を目的としています。

GFL の SNS はこちら↓



活動紹介

Global Awareness

外国人教師の英語授業を受けます。グループワークやプレゼンテーションを通し、実践的な英語力を身につけます。



模擬国連

各国の代表者として世界課題について議論します。昨年度は「水問題」をテーマに、解決策を考え、発表しました。



GFLet's

交流イベントや英語ディベートなど、月に 1 回程度開催し、他学部の GFL 生や留学生と楽しく活動しています。



GFL 生の声



仲間とともに世界を牽引するリーダーに。

群馬大学情報学部情報学科2年の吉野晃生です。

私がGFLに参加した理由は、高い志を持った仲間と切磋琢磨してより広い視野を得たいと思ったからです。

GFLでは「国際交流」というキーワードのもと、様々な活動を行っています。その一例として、模擬国連というものがあります。そこでは、世界の国々の代表者になりきって実際の社会課題の解決への議論を行います。その経験から、社会問題についての多角的な物事の見方を身につけました。また、GFLではGFL生による自主活動も行っています。留学生と一緒にパーティや英語ディベートを行ったり、外部から講師の方をお呼びして講演会などを開催したりしています。これらの活動を通して英語力を高めたり異文化理解を深めるだけでなく、大きな夢を語り合える友人を作ることでもできました。不可能と思われるような夢でも、GFLでは堂々と語ることができます。GFLに所属するメリットは上記のように数多くあります。しかし、これらのメリットすべては能動的に動かなければ得られません。自分から動いて世界を動かす。それがグローバルフロンティアリーダーの資質なのだと考えます。新しい一歩を踏み出すのは不安があるかもしれません。しかし、そんな不安を緩和する支援や仲間がGFLにはそろっています。一緒に世界を牽引するリーダーになりましょう!!

吉野晃生
2023 年度 GFL リーダー



施設紹介



* 10号館 *

情報学部生は主にここで授業を受けています。新棟が増設され、昨年度から利用可能になりました。新しい施設で共に学べるのを待っています！



* マルチメディア室 *

パンフレット制作委員は主にこの部屋で活動しています。ここにはイラストレーターが2台あり、パンフレット委員は無料で使うことができます。



* エントランス *

新棟の1階から2階にかけては吹き抜けの作りです。そのため、日当たり・風通しのよい空間となっています。ここにあるスペースで昼食をとっている学生もいます！

* パンフレット制作委員会とは？ *

このパンフレット、実は情報学部の学生が一から制作しているんです！パンフレットを学生が制作しているのは群馬大学の中でなんと情報学部だけ！！内容の決定から先生方へのインタビュー、写真撮影、レイアウト、デザインなどなど。やる事は沢山ありますが役割分担しながら進めています。先生方はほとんど関わらず、学生主体で制作をしています。今年度は2年生・3年生合わせて15人で制作しました。写真や取材に興味がある！デザインをしてみたい！一から何かを制作してみたい！どんな理由でも大歓迎！一緒にパンフレットを作りませんか？



* 教室 *

縦長の教室ですが、モニターが設置されているので後ろ側の席でも見えやすいです。空調も効いていて快適に授業を受けることができます！



締切間近で最後の追い込み中！各自で空きコマなど時間を見つけて制作しています。大変ですが、とてもやりがいがある楽しいです！！

就職支援・進路情報

就職支援スケジュール

4月	インターンシップ事前説明会 公務員試験直対策講座 (4年生・院2年生対象)	9月	就活ドキュメント講座
5月	職務適正テスト及び一般教養模擬試験 1・2年生のための公務員基礎知識講座 公務員試験対策講座 (3年生・院1年生対象)	10月	就職活動スタートアップ講座 自己分析講座 Part1・Part2 企業研究講座 Part1 インターンシップ体験報告会
6月	就職活動準備講座 (1～3年生対象)	11月	企業研究講座 Part2 エントリーシート講座 Part1・Part2 面接講座 Part1
7月	就活マナー講座 インターンシップ実習事前講座 女性のためのキャリアデザイン講座 就職活動フォローアップ講座 (4年生・院2年生対象)	12月	就職活動体験発表 面接講座 Part2 公務員採用試験及び業務概要説明会

※スケジュールは目安です。

キャリアサポート体制

キャリアサポート室

キャリアサポート室は、学生一人ひとりの適性にあった進路決定ができるよう就職活動の支援を行っています。具体的には、1年次より学年に応じて、キャリア計画、キャリア設計をはじめとする学修意欲の向上を図り、インターンシップにおいては、社会的に必要な能力や実践的な能力の育成、希望する企業等へのマッチング及び申請支援、実施に関する事前説明会、実習講座及びマナー教育並びに実習後の在学生への体験報告会等を実施しています。キャリアサポート室では、各企業からの求人票・会社案内、先輩方の就職活動報告書、就職関連図書の貸出し・閲覧などができます。また、公務員用受験案内についても取り揃えています。(企業、官公庁などパンフレット約 3,000 件)

キャリアカウンセリング

就職の相談に応じるため、キャリアカウンセラーが配置されています。キャリアカウンセラーは、就職だけでなく生涯設計を踏まえての幅広い相談に応じることができる専門家です。また、リモートでのカウンセリングも実施しています。ぜひ、気軽に相談をしてください。

情報学部の特徴ある就職支援セミナー

外部から講師を招き公務員試験対策セミナーを開催予定で、過去問を中心にした実践的な内容で行います。公務員を目指そうとする人は早めの心構えが必要です。早くからこうしたセミナーに参加していくのがおすすめです。

主な就職先

※データは社会情報学部と理工学部電子情報理工科情報科学コースのもの

●公的機関(国家公務員)

特許庁 / 関東信越国税局

●公的機関(地方公務員)

群馬県 / 前橋市 / 高崎市 / 館林市 / 沼田市 / 桐生市 / 邑楽町 / 足利市 / 埼玉県 / 三郷市 / 小川町 / 松本市 / 豊島区 / 福島県

●情報通信業

両毛システムズ / ビジネスエンジニアリング / SPGホールマン / セブン&アイ・ネットメディア / 日立ソリューションズ東日本 / クライム / HOUSEI / 群馬農協電算センター / キヤノンITソリューションズ / トーハン / エクサ / ABI / アクト / アイエックス・ナレッジ / 茨城新聞社 / 日立ソリューションズ・クリエイト / SCSKシステムマネジメント / 八十二システム開発 / ユリーカ / ウイングアーク 1st / 極東テレビ / 東芝デジタルソリューションズ / 三菱総研 DCS / 三井住友トラスト・システム & サービス / 日立ソリューションズ・クリエイト / フェローズ / ハイマックス / ゼネット / ジーシー / シーエスエム / アクセルエンターメディア / 日東システムテクノロジーズ / 三菱電機ソフトウェア / パーソルプロセス & テクノロジー / ナショナルソフトウェア / システムズデザイン / コンピューترون / ジャステック / NTTデータアイ / システム情報 / ソフトウェア技術

●金融業

群馬銀行 / 東和銀行 / 桐生信用金庫 / 栃木県信用保証協会 / 静岡銀行 / 野村證券 / 農林中央金庫

●小売業

セブン・イレブン・ジャパン / とりせん

●製造業

信越理研 / 能美防災 / キオクシア / 東邦工業 / ニデックアドバンストモータ / トロナジャパン / 平和食品工業 / 伊那食品工業 / JUKI / 日本トムソン / サンデン / トラスト

●生活関連サービス業、娯楽業

関東開発 / NEXUS

●サービス業

ベリゾートトラスト / タリーズコーヒージャパン / 博報堂プロダクツ / 若草印刷 / サニーサイドアップグループ / エリアフォース / 地域力創造 / 日本経済広告社 / アウトソーシングテクノロジー / NEW GATE / ワークポート / 日研トータルソーシング / ユニテック / ウィルオブ・コンストラクション / IHIエアロスペース・エンジニアリング / 埼玉県民共済生活協同組合 / JRサービスクリエーション / ウィルオブ・ワーク / マーキュリー / JR東日本東北総合サービス

●不動産取引・賃貸・管理業

FGH

●化学工業、石油・石炭製品製造業

東レ / ユニ・チャーム

●保険業

東京海上日動パートナーズEAST / Chubb損害保険 / 日本生命 / 東京海上日動火災保険

●卸売業

トヨタカローラ群馬 / ミスミ

●運輸業

東日本旅客鉄道

●電気・ガス・熱供給・水道業

東京電力ホールディングス / 東京発電

●社会保険・社会福祉・介護事業

社会福祉法人大平台会

●電子部品・デバイス・電子回路製造業製造業

信越理研 / 能美防災 / キオクシア

●電気・情報通信機械器具製造業

東邦工業 / ニデックアドバンストモータ

●建設業

戸田建設

●印刷・同関連業

朝日印刷工業

●学校教育

群馬大学

●その他

日本年金機構

就職率 100%

※情報学部の母体となる社会情報学部の就職率



MAP



HP



アクセス

JR 両毛線、前橋駅下車

関越交通バス（渋川・小児医療センター行き または
群馬大学荒牧行き）に乗車

バス：JR 前橋駅 北口2番 乗り場

「群馬大学荒牧」または「前橋自動車教習所前」下車

所要時間
25分

JR 上越線、渋川駅下車

関越交通バス（前橋駅行き）に乗車

「群馬大学荒牧」または「前橋自動車教習所前」下車

所要時間
30分

SNS



製作：群馬大学情報学部パンフレット制作委員会 2025

丹生谷 賢政 渡邊 千夏 川中子 幸恵 高橋 凜 小暮 優緒 宮澤 懐那 丸山 優香

町田 陽菜 林 朋奈 高野 ひなた 柿崎 柊平 金井塚 大智 佐藤 俊輔 三保 璃胡 海澤 千桜